

埼玉アートシアター通信

S A I T A M A A R T S T H E A T E R P R E S S

2012.11-12

NO. 42

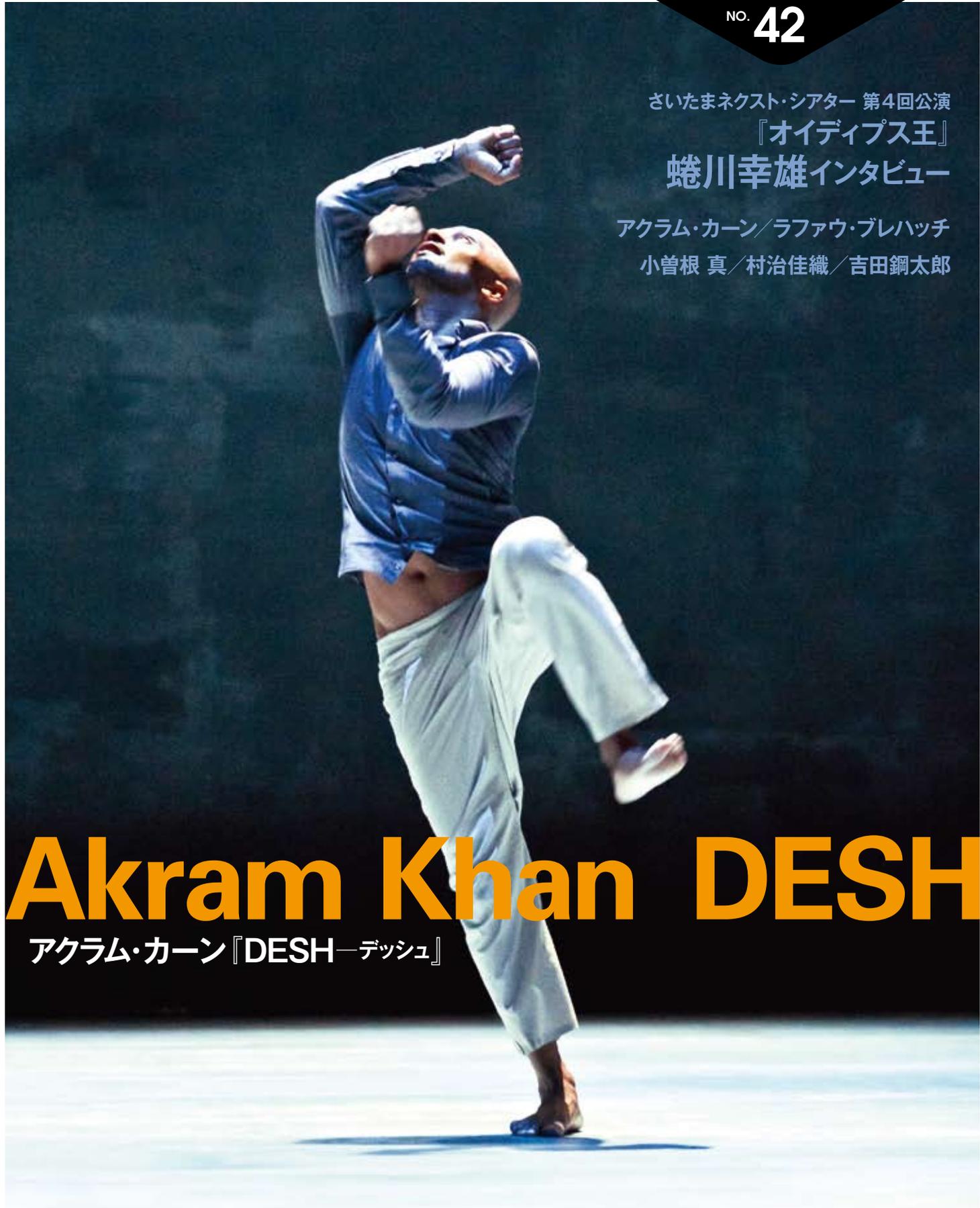
さいたまネクスト・シアター 第4回公演

『オイディプス王』

蜷川幸雄インタビュー

アクラム・カーン/ラファウ・ブレハッチ

小曾根 真/村治佳織/吉田鋼太郎



Akram Khan DESH

アクラム・カーン『DESH—デッシュ』

2012.11-12

NO. **42**

- 03
PLAY

 さいたまネクスト・シアター 第4回公演
『オイディプス王』
 蜷川幸雄インタビュー
- 07
PLAY

 速報! 彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾
『ヘンリー四世』 上演決定!
- 08
DANCE

 アクラム・カーン 『DESH—デッシュ』
 アクラム・カーン インタビュー
- 10
DANCE

 子どもと大人のためのダンス
日本昔ばなしのダンス 新作 近藤良平×伊藤千枝
- 12
MUSIC

 埼玉会館ニューイヤー・コンサート 2013
ウィーン・MARO・アンサンブル
 埼玉会館ランチタイム・コンサート 第20回
東混ゾリステンが贈る日本の歌&クリスマス・キャロル
- 13
MUSIC

 ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1
ラファウ・ブレハッチ ピアノ・リサイタル
- 14
MUSIC

 ついにシリーズ最終章
小曾根 真の現在 Vol.3 デュオ with エリス・マルサリス
- 16
MUSIC

 待望の新シリーズがスタート
村治佳織の現在 Vol.1 デュオ with ヴォルフガング・シュルツ
- 18
COLUMN

 アーティストの原点 08 **吉田鋼太郎**
- 19
REVIEW

 2012.9-10 **彩の国のアーツ**
- 20

イベント・カレンダー／チケットインフォメーション
彩の国シネマスタジオ
- 23

THEATER BRIDGE



COVER
アクラム・カーン 『DESH—デッシュ』
Photo © Richard Haughton

SAITAMA ARTS THEATER PRESS 2012.11-12 No.42
編集◎市川安紀 [アルカディア社]、結城美穂子 デザイン◎中野一弘 [bueno]

©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
Published on 15. November 2012 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2012年10月25日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。



『オイディプス王』
蜷川幸雄インタビュー

さいたまネクスト・シアター 第4回公演

2009年の結成以来、快進撃を続けるさいたまネクスト・シアター。若き集団を率いる蜷川幸雄は、常に思いがけない刺激を彼らに与えて鼓舞し続けている。この9月には追加オーディションも実施し、新メンバーが加わったネクストが次に挑むは、なんとギリシャ悲劇の傑作『オイディプス王』だ。ハートルをどんどん上げながら共に走り続ける蜷川は、今、何を思うのか。

取材・文◎上野紀子 Photo◎細野晋司



若者世代に逆行する演劇体験を

——前回のシェイクスピア（『ハムレット』）からギリシャ悲劇（『オイディプス王』）へ。さいたまネクスト・シアターに課したこのステップの狙いを教えてください。

時間軸が逆行していますよね（笑）。この間のオーディションでも感じたことですが、600人が来て、そのほとんどが体育着、スポーツ着で受験するんです。こっちは別にそういうニュートラルな身体が見たいわけじゃない。体育着って制服みたいなものだから個人が見えなくなるんですよね。そ

めたさがあったので、そこに伝統的な日本の底辺のテーマである“演歌”を持ってきたら……、こまどり姉妹さんが出てきたら、そういう借り物の文化で育った僕らのアイデンティティはどうなるのか、ぶっ飛ぶんじゃないか？ ということをやってみました。それは一定の評価が出たと思うんです。やっぱり前近代に勝つにはよほどの力がないと崩れてしまうということが明らかになった。で、そこでとどまるわけにはいかないから、じゃあもっと先へ。もっと根源的な人間の在り方を問われる古典劇、ギリシャ悲劇まで行っちゃえばどうなるんだろうと。だから、今の若者たちがやろうとし

ました。彼らにとっては生まれてくる前の、おばあちゃんの歌を聴いているようなもの shouldn't? 知らなかった世界に触れたことで、身体の中でいろんなものが動き始めていってほしいな。その結果がギリシャ悲劇で実証できるかなと思っています。

自分を許容しすぎる若者たち

——先ほどおっしゃっていた9月のオーディションですが、メンバー数人が抜けてしまったことで急遽行うことに？

はい、辞めさせました。勉強しないので

みたいにダメ出ししちゃったりしてね。でも最低限の、演劇人の誠意とでもいうのかな。僕ら先行する世代がちゃんと一対一で君らと接したぞ、ということだけは残したかったです。落とされたことで僕を嫌いになるのはいいとしても、芝居を嫌いにならないでくれたらいいなと思って。よそで「蜷川さんのオーディション、すごく面白かった」と言っていたという噂を聞いて、よかったなと思いましたよ。今回は10人の新しいメンバーを入れました。これでもっと雑多に面白くなってほしいな。

長年の夢が次々と実現

——新メンバーも入れての『オイディプス王』になるわけですが、蜷川さんがこの作品の演出を手がけるのはすでに4度目。過去の作品は松本幸四郎さん、平幹二郎さん、野村萬斎さんといったそうそうたる実力俳優による主演舞台です。

そうですね。最初に上演した東宝の舞台は幸四郎さんが染五郎さんだった時代で、ホーフマンスタールの翻訳による台本を使っただけです。今回、その同じ台本を使います。その台本で時代の違う若者たちがどう演じていくのか。そして時代と環境が変



わった中で、僕はどのように演出していくんだろうかという興味もある。ネタを明かしてしまうと、クロスが全員、三味線を弾きます。もう皆、半年以上ずっと三味線の稽古をしているので、ある程度弾けるようになっています。以前から、クロス全員で三味線を弾くギリシャ悲劇をやりたいと思っていたんですよ。三味線を弾くクロスならヨーロッパのギリシャ悲劇に勝てると思って、いつかきつとやりたいと、ものすごいこだわりを持っていたんです。

——念願が叶う時が来ましたね。

そう、だから僕、死ぬのかな？ と思って（笑）。長い間の夢だったこまどり姉妹さんとも仕事をして、今度は夢の三味線。どんどん夢が実現していくと、もう後がなくなってきた（笑）。『オイディプス王』ではゴールドから老け役を借りてきたりせずに、全員若者でやろうと思っています。実はネクストとゴールドの合同企画もあるんだけど、それはまた次の機会にお話しますね。

『オイディプス王』の前に“ザ・ファクトリー2”もあります。演出助手の藤田俊太郎が工房で発表したエチュードが思いがけなく面白かったので、「劇場の中にはほかにも芝居やれるところがいっぱいあるよな」って皆で劇場を回って見たんです。「あっ、こんなところでもテネシー・ウィリアムズができるんだ！」ということを発見して、それぞれの演出家が選んだ場所で発表する面白い試みなんですね。こうした経験によって藤田や井上尊晶などの若い演出家や若い俳優が育ってほしいな。彼らが頑張れる場を確保していくことで、さいたま固有の発信力を持つようになればいいなと思っています。

“根源的な人間の在り方を問うギリシャ悲劇で若者たちに違う世界を発見してほしい”



第3回公演『2012年・蒼白の少年少女による「ハムレット」』（2012）ハムレットの悲劇に突如現れ熱唱するこまどり姉妹！ Photo ©宮川舞子

ういう格好で平気で受ける感覚が、僕にはわからないんです。今の若者は自分たちの日常の拡大されたものでしか社会と接していかないから、大勢の人間の中で自分を明らかにしていく能力が衰えているんじゃないかと思うわけです。自分たちが見ている世界なんてどれだけちっぽけであるか、気づかなければいけない。それで現代劇をやってもしょうがない、古典にこうと思って『ハムレット』にしたんです。あの時は、自分が演出家になった時からずっと感じている、母語じゃない借り物の戯曲を勉強して芝居を上演している痛ましさを後ろ



第2回公演『美しきものの伝説』（2010）読売演劇大賞優秀作品賞を受賞 Photo ©宮川舞子

ている演劇とは真逆のほうへ突き進んでいる。そういう経験を経ていくと、若者たちも自分たちとは違う世界を発見して、もう少し発想が変わってくるんじゃないか。インターネットなどの電子機器を中心とした世界とは違うものに気づくんじゃないかなと思っていますね。

——前回の『ハムレット』では、こまどり姉妹という強烈な一時代の文化の象徴に、彼らがどう拮抗できるかという挑戦だったわけですが、それは合格点だったと？

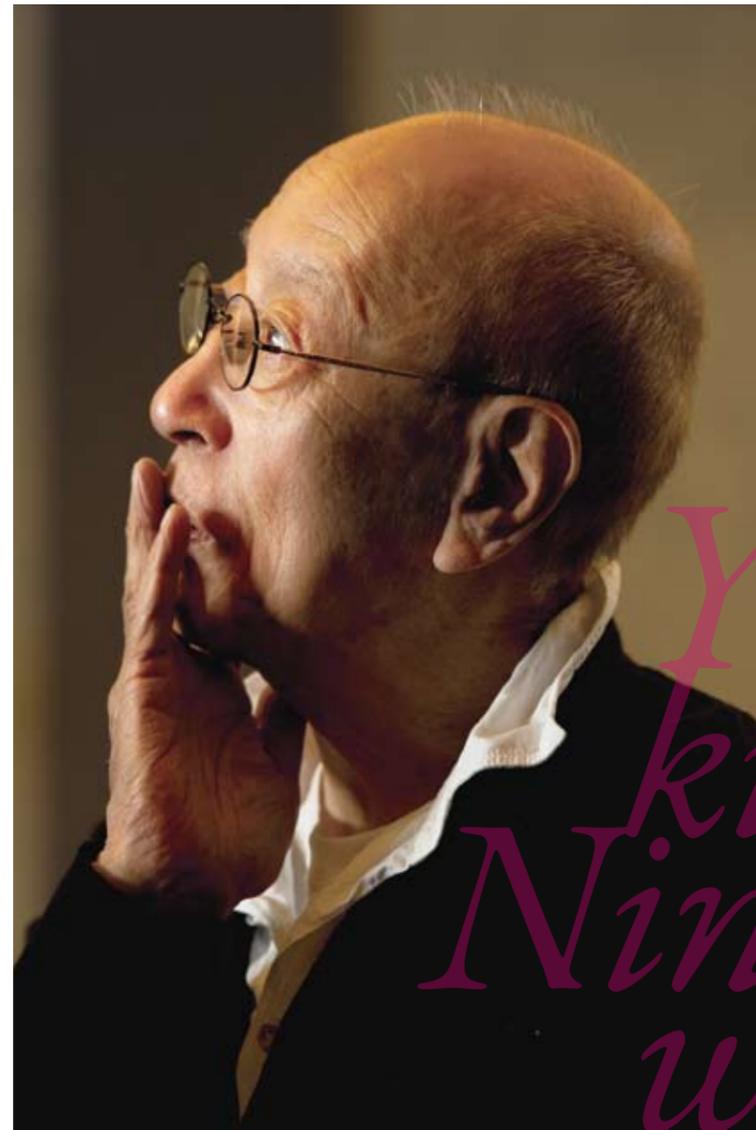
まあ、よく頑張りました。泣きながらあの2人の存在になんとか拮抗しようとし

バサッと切り捨てました。僕という、新劇もやり、アングラもやり、外国でも仕事をしている、一番経験の種類が多い演出家のところを選んで来た以上、じゃあ僕はどのようなやり方で仕事をしているのか、まずは稽古を見ると。その上でエチュードをジャンジャン発表しろと

言ってきたんです。でもやらない。自分を許容しすぎなんです。この彩の国さいたま芸術劇場はネクストだけじゃなくゴールド（・シアター）、この2つの劇団を自由にクリエイティブに活動させてくれる、公共にしては珍しい劇場なんです。稽古場はあるし、セットも小道具も充実している。そんないい環境にいて勉強が足りない。甘えるな、とね。で、辞めさせたら人数が半分くらいになったので、オーディションをしたんです。

——600人の受験者全員にお会いになったんですよね。

そう、4日間で一日150人かな。もう～気が狂いそうでした（笑）。つい普通の稽古



Yuki Ninagawa

蛭川幸雄の飽くなき挑戦

過去7回演出した『ハムレット』を筆頭に、蛭川幸雄はひとつの作品を複数回にわたり演出することが多い。海外公演で『世界のニナガワ』の名を知らしめた『マクベス』や『王女メディア』といった作品であっても、過去の栄光には一切固執しない。何の躊躇もなく、まったく新しい作品として次々に作り替えていく。常に時代の息吹を感じ、新たな俳優と向き合うことで、「今、ここでしかない」演劇のライブ性を追求し続けているのだ。

ギリシャ悲劇の傑作『オイディプス王』もまた然り。150人近いコロスを登場させた1976年の初演版、築地本願寺で大規模な野外公演を行った1986年版、さらにはギ

リシャ悲劇の本場アテネに招かれ、古代円形劇場での野外公演を実現させた2002・2004年版と、蛭川は各時代においてセンセーショナルな『オイディプス王』の舞台を生み出してきた。

文学、映画、演劇と、現在に至るまでさまざまな変奏曲が生まれているこのギリシャ悲劇の傑作に、今回蛭川は、さいたまネクスト・シアターの若き俳優たちを率いて挑む。

呪われた血の運命

『オイディプス王』は紀元前5世紀ごろに活躍した悲劇詩人ソフォクレスの代表作。ソフォクレスは、アイスキュロス（『アガ멤ノン』）、エウリピデス（『トロイアの女た

ち』『メディア』）と並んで、古代ギリシャの三大悲劇詩人のひとりだ。

テーバイ王オイディプスの運命に不吉な影を落とすのは、「父親を殺し、母親と交わる」というただならぬ予言であった。先王殺害の犯人探しは、やがてオイディプス自身に予期せぬ真実を突きつける――。

インタビューでも蛭川が語っているように、人間の根源的在り方を問うのがギリシャ悲劇の特質だ。血に呪われ、血に抗い、人間としての尊厳を自問自答し苦悩するオイディプスの姿は、混迷の時代を生きる現代の私たちに「人間とは何か」という大きな命題を突きつける。果たしてその先に、「希望」を見出すことはできるのか。

蛭川が新たに仕掛ける伝説の誕生を、刮目して待ちたい。

Οἰδίπους Τύραννος

ギリシャ悲劇の傑作『オイディプス王』

公演概要

さいたまネクスト・シアター 第4回公演『オイディプス王』

日時：2013年2月14日(木)～24日(日)

| | | | | | | | | | | | |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 2013年 2月 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 |
| | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
| 14:00 | | | ★ | ★ | 休演 | ★ | ★ | ★ | | ★ | ★ |
| 18:30 | ★ | ★ | ★ | | | | ★ | | ★ | ★ | |

会場：彩の国さいたま芸術劇場 インサイド・シアター（大ホール内）
※大ホール舞台上の特設客席のため、客席及び椅子の形状が通常とは異なります。
※客席形状が決定次第、財団ホームページにてお知らせいたします。
原作：ソフォクレス
脚本：ホーフマンスタール
翻訳：小塩 節／前野光弘
演出：蛭川幸雄
出演：さいたまネクスト・シアター

チケット(税込)
全席自由 一般 4,000円 メンバーズ 3,600円

発売日：一般 11月24日(土) メンバーズ 11月23日(金・祝)

Story

疫病が蔓延するテーバイ。オイディプス王は神託を受けるため、妻イオカステの弟クレオンをデルポイの神殿へ送る。クレオンが語る神託は「先王ライオスを殺した犯人を国外追放か死刑に処さない限り、テーバイの復興はない」というものだった。先王殺害の犯人探しに燃えるオイディプスに向かい、預言者テイレスシアスは「オイディプスこそが禍いの元凶」と告げる。怒りに震えたオイディプスは、テイレスシアスを操る裏切り者としてクレオンを非難するが、仲裁に入ったイオカステが先王殺害の経緯を語りはじめ――。

Yu
kio
Ninaga
wa



【フォルスタッフ】

【ハル王子】

吉田鋼太郎×松坂桃李

シェイクスピア作品屈指の名コンビが登場!

速報! 『ヘンリー四世』上演決定!!

蛭川幸雄芸術監督のもと、シェイクスピア全37作の上演を目指す彩の国シェイクスピア・シリーズ。この夏に上演された男優キャストのみによるオールメール・シリーズ『トロイラスとクレシダ』に続き、待望の最新作が決定した。

来年4月に第27弾として登場するのは『ヘンリー四世』。シェイクスピア作品の中

でも屈指の人気を誇る名コンビ、飲んだくれの不良中年騎士フォルスタッフと、放蕩三昧のハル王子（後のヘンリー五世）が大活躍する英国史劇だ。フォルスタッフの恋の騒動を描く『ウィンザーの陽気な女房たち』は既に当シリーズで上演済み（第9弾）だが、満を持して本作の登場となる。

本来は第1部・第2部に分かれた2部作だが、今回は1本にまとめた上演となる。当シリーズでは3部作を1本にまとめた『ヘンリー六世』（第22弾）と同様の形式だ。1部ではフォルスタッフと共に遊び回ってい

たハル王子が、2部では次期国王としての自覚が芽生え、新しい国王となるに至って、フォルスタッフとの関係性が変化していく点もみどころである。

主役フォルスタッフには、もはや彩の国シェイクスピア・シリーズには欠かせない顔として活躍する吉田鋼太郎。シェイクスピア俳優としての揺るぎない演技力に加え、実はコメディセンスも定評あるところ。酒好き、女好きの愛すべきメタボ中年フォルスタッフをいかに作り上げるのか、大いに期待したい。対するハル王子には、蛭川作品初出演となる松坂桃李。NHK朝ドラマ『梅ちゃん先生』でヒロインの夫役を演じ、現在注目度も急上昇中の若手人気俳優が、「全力でぶつかって、舞台を創る楽しさを一緒に共有していきたい」と闘志を燃やす。青年皇太子の成長を爽やかに体現してくれることだろう。フォルスタッフとのコンビネーションも楽しみだ。

魅惑の顔合わせによる『ヘンリー四世』。今から春が待ち遠しい。

公演概要

彩の国シェイクスピア・シリーズ 第27弾 『ヘンリー四世』

日時：2013年4月13日(土)～5月2日(木)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|
| 2013年 4月 | 13 | 14 | 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 5/1 | 2 |
| | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 | 月 | 火 | 水 | 木 |
| 13:00 | | ★ | ★ | | ★ | 休演 | ★ | ★ | ★ | ★ | | ★ | 休演 | ★ | ★ | ★ | ★ | | ★ | ★ |
| 18:00 | ★ | | | ★ | | | | | | | | ★ | | | | | | | ★ | |

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
出演：蛭川幸雄
作：W.シェイクスピア
翻訳：松岡和子
構成：河合祥一郎
演出：吉田鋼太郎、松坂桃李（ほか）

チケット(税込)
一般：S席 9,000円/A席 7,000円/B席 5,000円(学生2,000円)
メンバーズ：S席 8,100円/A席 6,300円/B席 4,500円

発売日：一般 2013年1月19日(土) メンバーズ 2013年1月12日(土)
※メンバーズの方には別途ご案内するプレオーダー（抽選）があります。

アクラム・カーン『DESH—デッシュ』

みずからのルーツを辿り語り継ぐ渾身のソロ

取材・文◎岩城京子（パフォーミングアーツ・ジャーナリスト）
Photo◎Richard Haughton

今までもバングラデシュ系英国人の振付家アクラム・カーンは『ゼロ度』（2005）や『バホック』（2008）などで、その身体を通してアイデンティティにまつわる問題を考察してきた。しかしそれらの作品は、主に欧州圏において複雑化／多様化する移民二世間題などのアイデンティティ・ポリティクスに目を向けるものであり、振付家の個人史に真っ向から対峙するものではなかった。それというも、自分に向き合うことを「怖れてきた」のだと彼は明かす。しかしここ数年「これ以上、自分が若くなることはない」ことを感じ続けてきたと言う37歳のカーンは、ダンサーとしての身体のキレが鈍らないうちに、舞台上でひとり自分に向き合うことを決意。その決心から生まれた作品が、ベンガル語で「母国」という意味を持つ、意外にも、カーンによる初の長編ソロ・コンテンポラリー作品『DESH—デッシュ』（初演：2011年9月）だ。

「僕はずっとコンテンポラリー・ダンスという文脈のなかで、舞台にひとり立つことを怖れてきました。けれど年齢的に考えても、いまこそ、そのチャレンジの時。それで自分のアイデンティティ、生

い立ち、国、父親、そして何より自分自身と“対峙”する作品を創作することにしたわけです」

80分のあいだ、舞台上のカーンは「旅」を続ける。それは祖国バングラデシュへの物理的な旅であり、亡き父との対話（という架空の設定であり、実際カーンの父親は健在）から始まるアイデンティティを巡る心の旅路でもある。カーンと、彼のコレオグラファーである、美術・映像のティム・イップ、音楽のジョスリン・ブーク、詩人のカルティカ・ナイールは、異国であり母国でもある土地で出会う様々な風景を、じつに映画的な音や光や言葉により表象していく。そのただ中にカーンが立



ち、カタク、マーシャル・アーツ、ヒップホップ、など多様な舞踊様式を融合させた身体表現で一本の物語を紡いでいく。まるで自身の複雑なアイデンティティを一体化させていくように、彼は様々な身体表現をスムーズに融合させていく。

「子供のころ、うちの居間のテレビにはマイケル・ジャクソンが映っていて、隣の部屋ではボリウッド（インド映画）のインド音楽がかかっていた、さらに僕は母親からは30年間フォークダンスを教わって、後々、学生時代にはコンテンポラリー・ダンスのトレーニングを積むことになった。そうしたら、僕の身体は完全な混乱状態に陥ってしまった。でもそれらすべての文化を融合させる良い時期が来たんじゃないかと思っ

てね、それでこの作品でそれを初めて試してみることにしたんです。僕にとっては、この自分の複雑な身体こそが“母国”であり“アイデンティティ”だから」

概して物語性のあるダンスを好む英国の観客は、本作を「現時点での彼の最高傑作」（ザ・テレグラフ紙）と絶賛。ストーリー・ダンスというジャンルに対しての好

き嫌いはあるにせよ、確かに、本作でカーンが試みている「複雑なアイデンティティをダンス表現の融合から掴み取る」という振付的アプローチは評価に価する。そして彼はこの試みから、不安で繊細でそれでいて強度のある水の流れるように予測不能な身体表現を生み出してみせる。「僕はつねに、地面のなかにある水に魅了されてきました。水の流動的なフォルムは、僕の思考法とムーヴメントの基本指針を成していると言えるほどです。またバングラデシュという国には水がふんだんにあり、この国の人々は水と共に暮らし、また水と戦って生きてきました。

そのような水に対しての多様な思想がこの作品で表現されています」

バングラデシュの凶暴なサイクロン、穏やかな熱帯降雨、マングローブの沼から鼻先を浮かべるワニ——、カーンは自身のルーツを探る旅を水筋に乗って辿っていく。その旅は、パーソナルであると共に非常にポリティカルな要素をも含み、劇中、バングラデシュの歴史に欠かせない人物が数人登場する。

「例えばヌール・ホセインというバングラデシュの独立のために戦った人物など、数人のキャラクターたちを演じます。それらの人物を通して僕は、バングラデ

シュの人々が大自然とどのように戦い、そしてどのように人々が忍耐強く生き抜いてきたかを、労働、夢、変革のリズムを通して表していきます。お客さまが本作を通して、この類い希な国に内在する素晴らしい美しさを感じとってくれたら嬉しいですね」

異国であり母国でもあるバングラデシュへの旅を通して生まれた『DESH』。多国籍で多文化な影響のもと育まれた自分の身体こそがアイデンティティであると語るカーンの、孤独で、素朴で、複雑で、ユーモラスなふるさとへの旅路がここに集約されている。

公演概要

アクラム・カーン『DESH—デッシュ』（ソロ）

日時：2013年1月26日（土）開演16:00、27日（日）開演15:00

※上演時間約80分（途中休憩なし）。

※演出の都合により、開演時間に遅れますとお席へのご案内ができない場合がございます。予めご了承ください。

会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

演出・振付・出演：アクラム・カーン

ビジュアルデザイン：ティム・イップ

音楽：ジョスリン・ブーク

チケット（税込）好評発売中

一般：S席5,000円／A席3,500円（学生2,500円）

メンバーズ：S席4,500円／A席3,200円

※A席サイドバルコニーのお席は、舞台の一部が見切れます。予めご了承ください。



アクラム・カーン

Akram Khan

ダンサー・振付家。ロンドン生まれのバングラデシュ系イギリス人。コンテンポラリー・ダンスとインドの古典舞踊「カタク」をユニークに融合させ、異文化を越境する表現活動を精力的に行っている。90年代にソロ作品を発表し始めるとともに、カタクの踊り手としても舞台に立つ。2000年、カンパニーを設立。現在、サドラーズ・ウェルズ劇場のアソシエイト・アーティスト。シルヴィ・ギエムやジュリエット・ピノシュとのコラボレーションでも大きな注目を集めたほか、12年夏のロンドン・オリンピック開会式でも振付、出演し話題を呼んだ。サウス・バンク・アワード、オリヴィエ賞ほか、受賞多数。今、世界が最も注目する振付家の一人。

子どもと大人のためのダンス

新作

日本昔ばなしのダンス

近藤良平×伊藤千枝

誰もが知っている日本の昔ばなしに題材を得て、ダンス作品をつくるユニークなシリーズ。昨年、公演延期となってしまった2作品がめでたく上演されることになった。近藤良平が『モモタロウ』を、伊藤千枝が『わらしべ長者』をどう料理するのか？一筋縄ではいかない仕上がりに期待が高まる。

Photo © Arnold Groeschel, 池上直哉, 宮川舞子



Photo © HARU

近藤良平

『はなさかじいさん』のときは物語に則って最後に花が咲く、という作品にしたけど、今回は全く逆。鬼側から見た『モモタロウ』にしようと思っているんだ。だから自分にとってはチャレンジ。芥川龍之介がそういう『桃太郎』を書いているんだけど、桃太郎は雉に賄賂を渡すような嫌な奴で、鬼の方は「どうする？桃太郎が来るぜ」って怖がっている。その言葉の言い回しがとても面白い。今回はそれを参考に、鬼の正確な情報を細部にわたって、まじめに伝えたい。子どもたちが想像しているような鬼とは違って、人を食うような肉食ではなく草食かもしれないし、視力はいくつか、虫歯はあるのか、なんてことをね。子どもから「それは違う！」って言い分が出てくるようなのがいいな。社会的な意味合いはないけれど、深読みは勝手にやってもらって構わない。桃太郎は影絵でもいいし、出てこないかもしれないけど、最後は鬼たちが「俺たち、ダンスで頑張ろう！」って励ましあうような作品になるかもしれないね。

取材・文 © 稲田奈緒美 (舞踊評論家)

時代を先駆ける新しい芸術様式の面白さを伝えようとするとき、作品のテーマまで新しさを追求しすぎると、観客は理解することばかりに懸命になりやすい。むしろ作品のテーマはわかりやすく、とかの坪内逍遙が明治・大正時代に「新楽劇」を唱えたとき、実践する作品として選んだのが「浦島太郎」だった。時代は下って平成の埼玉では、コンテンポラリー・ダンスという新しいダンスの面白さを、子どもから大人まで伝えるために選ばれたのが、日本の昔ばなしだった。

2006年10月に始まった「日本昔ばなしのダンス」シリーズでは、コンテンポラリー・ダンス界で活躍する旬の振付家たちがさまざまに工夫を凝らして、昔ばなしをダンスにしている。1回目は、珍しいキノコ舞踊団を主宰する伊藤千枝が、同カンパニーの選抜メンバーとともに『へっこきよめ』を振り付けて上演し、コンドルズを主宰する近藤良平が、同カンパニーの選抜メンバーとともに『ねずみのすもう』を振り付け、上演した。2回目の

2008年1月には、イデビアン・クルーを主宰する井手茂太が『さんねんねたろう』を、康本雅子が『かみなりむすめ』を振り付け、上演した。3回目の2008年10月には、近藤良平が『はなさかじいさん』を、森下真樹が『うらしまたろう』を振り付け、上演した。これらの作品は、その後全国各地で再演され、劇場、美術館から幼稚園まで様々な場で好評を博している。

このシリーズ作品は、“子どもから大人まで楽しめる”わけだが、決して“子ども向け”や“子どもだまし”の作品ではない。彼ら振付家は、わかりやすい昔ばなしのストーリーを借りてオモシロおかしく振り付けながら、ときにじんわりと効いてくる毒を潜ませたり、シュールな光景を現出させたり、ありきたりな理解に落ち着かないよう不可解さを仕掛けたりするのである。

近藤良平曰く、「子どもにも大人にもわかるものを作るのではなく、子どもにはわかるけど大人にはわからないとか、その逆もある。子どもには引かかるも

『モモタロウ』と
一体どんな『わらしべ長者』、
ダンスになるのかな？

のがあるけど、大人には引っかからないとか、そういうズレが好きなんだよね。それで、「お母さん、あれどういうこと？」なんて会話が始めれば面白いと思う。

作品を見た人に同じ理解を求めるのではなく、異なる理解が生まれ、そこから会話や思考が始まるのは、実はコンテンポラリー・ダンスそのものの特質である。作品の解釈は一通りでなく、見る人によって異なる理解や楽しみ方、味わい方が可能であり、そこに豊かな想像力が育まれ、コミュニケーションが始まるのである。コンテンポラリー・ダンスの振付家たちが、このシリーズの振付を楽しみながらも真剣に、ときにスリリングに挑戦している理由がそこにある。

公演概要

子どもと大人のためのダンス

日本昔ばなしのダンス 新作 近藤良平×伊藤千枝

日 時：2013年2月10日(日)、11日(月・祝) 各日開演13:00/16:00
 会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 演 目：『モモタロウ』
 振付：近藤良平
 出演：コンドルズ選抜メンバー（鎌倉道彦、藤田善宏、山本光二郎、近藤良平）
 『わらしべ長者』
 振付：伊藤千枝
 出演：珍しいキノコ舞踊団選抜メンバー（山田郷美、篠崎芽美、伊藤千枝）

チケット(税込)
 全席指定 大人(高校生以上)2,000円 子ども(3歳以上中学生以下)1,000円
 発売日：一般12月1日(土) メンバーズ11月23日(金・祝)
 ※3歳未満のお子様のお入場はご遠慮ください。

そして今回は再び、伊藤千枝、近藤良平が振付を担当する。実は、2011年に初演される予定だったが、東日本大震災の影響で延期になり、今回は満を持しての登場だ。伊藤は『わらしべ長者』、近藤は『モモタロウ』を題材に選んでいるが、私たちが知っている昔ばなしが、そのまま舞踊劇に翻訳されることなどないだろう。時代を越えて語り継がれた物語から、彼らは何を抽出し、いかに変容させるのか。観客によって何百通りの楽しみ方が生まれるのか。子どもも大人も、劇場へ行って体験しなければわからないだろう。敢えて童心に戻る必要も、背伸びをする必要もない。懐かしさ、楽しさ、愉快さ、悲しさ、ギャップもズレもひっくり返る自由な呑み込めばよいのである。



Photo © David Duval Smith

伊藤千枝

『へっこきよめ』では物語のアイディアのみを借りて、登場人物を姉妹二人に代えて振り付けました。私たち、珍しいキノコ舞踊団は女性だけのグループなので、今回も女性だけで踊るにはどうしたらいいか、男装するのか(笑)、なんて考えています。今回は、もう少し物語を忠実になぞろうと思っていますが、昔ばなしの主人公が持っていた藁しべがアブに、アブがミカンに、反物に、馬にと変わっていても、今の子どもたちには響かないかもしれない。なので、現代のちょっと貧乏な女子がいて、ドリフのギャグのような爆発後の髪型みたいな姿だったのが、どんどんキラキラきれいになっていって玉の輿に乗る、なんていう設定にしても面白いかな、と思っています。主人公が旅をしながら、いろんな場所でいろんな人に会って行く様子を、紙芝居のように次々と場面を変えて見せたいけれど、それを身体的にどう表現するのか悩んでいるところ。私は元々、抽象的に作品を創るタイプなので、今回も物語をどのようにダンスで紡いでいくかの挑戦です。



N響メンバーによる ウィーンの調べで新年を寿ぐ



新年にウィーンの音楽を楽しむ人が増えたのは、やはり、日本でも放映されるウィーン・フィルハーモニー管弦楽団によるニューイヤー・コンサートの影響が大きいのであろう。1月を迎えるとウィーンの様々アンサンブルが大挙して来日するのは、それだけ日本で「新年にはウィーンのワルツやポルカを」と楽しみにしている方が多い証拠といえるのかもしれない。

でも、素敵なウィーンの調べを聴かせてくれるのは、何もウィーンを拠点とする音楽家たちばかりとは限らない。毎年、埼玉会館に出演しているNHK交響楽団(N響)で第1コンサートマスターを務めるMARO

埼玉会館ニューイヤー・コンサート 2013 ウィーン・MARO・アンサンブル

こと篠崎史紀は、高校卒業と同時にウィーンへ渡り、その独特の音楽を体にしみこませているアーティストのひとり。2010年の「埼玉会館ニューイヤー・コンサート」では、N響が誇る精鋭たちと共に「ウィーン・MARO・アンサンブル」として登場し、そのウィーンの薫り豊かな調べと飾らないトークで満場の聴衆を魅了した。今回は、熱いリクエストにお応えしての再登場となる。ヴァイオリン2人、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、フルート、クラリネット2人、ホルンという編成から生まれる豊かな響きと絶妙なアンサンブルで、2013年のお聴き初めはいかが？



2010年の公演より Photo ©加藤英弘

公演概要

日 時：2013年1月7日(月) 開演14:00
会 場：埼玉会館 大ホール
出 演：篠崎史紀(第1ヴァイオリン)、白井 篤(第2ヴァイオリン)、佐々木 亮(ヴィオラ)、木越 洋(チェロ)、西山真二(コントラバス)、神田寛明(フルート)、横川晴児・山根孝司(クラリネット)、日高 剛(ホルン)
曲 目：ジーン・ツインスキー／ウィーンわが夢の街
R. シュトラウス／《薔薇の騎士》より ワルツ
レハール／メリー・ウイドウ・ワルツ ほか

チケット(税込) 好評発売中
一 般：S席3,500円/A席2,500円(学生1,000円)
メンバーズ：S席3,200円

Lunch Time Concert

ランチタイムに美しい歌声で 心洗われるひとときを

新年だけでなくクリスマスもまた、音楽が彩りを添える季節。平日の昼間、気軽に音楽を楽しめると好評の「埼玉会館ランチタイム・コンサート」でも、クリスマスにふさわしいメロディの数々をお届けする。

今回登場するのは、日本を代表するプロの合唱団として押しも押されぬ東京混声合唱団(東混)のメンバー8人。ア・カペラ

(無伴奏コーラス)による耳なじみのあるクリスマス・キャロルや世界のクリスマスの歌に加え、東混が得意とする日本の歌まで聴けるお得感満載のコンサートには、家族や友達を誘い合わせて出かけたい。

また、埼玉会館近隣の協賛店では、チケットの半券提示でお得なサービスもあるので浦和の街を満喫してみてください。

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第20回 東混ゾリステンが贈る 日本の歌&クリスマス・キャロル



公演概要

日 時：12月21日(金) 開演12:10
会 場：埼玉会館 大ホール
出 演：東混ゾリステン(東京混声合唱団メンバー) 和田友子・佐藤祐子(ソプラノ)、栗原苑子・小林祐美(アルト) 千葉弘樹・川出康平(テノール)、徳永祐一・佐々木武彦(バス) (出演予定メンバー)

曲 目：本居長世(山本直純編曲)／七つの子
ドイツ民謡(ロジェ・ワーグナー編曲)／もみの木
メイスン(ショウ編曲)／もろびとこぞりて ほか

チケット(税込) 好評発売中 全席指定 1,000円

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ ピアノ・リサイタル

文◎真嶋雄大(音楽評論家) Photo◎Felix Broede

1997年4月に開幕、半ばから中村紘子を音楽監督に迎え、1年に10人、10年で100人のピアニストがその華を競い、絶賛されて完結したのが「ピアニスト100」。その後継企画が「ピアノ・エトワール・シリーズ」であり、第1回の2007年6月に登場したのが、ラファウ・ブレハッチだった。未来の音楽界を背負う気鋭の若手がステージに立つこのシリーズも大好評、今年で20回を数える。

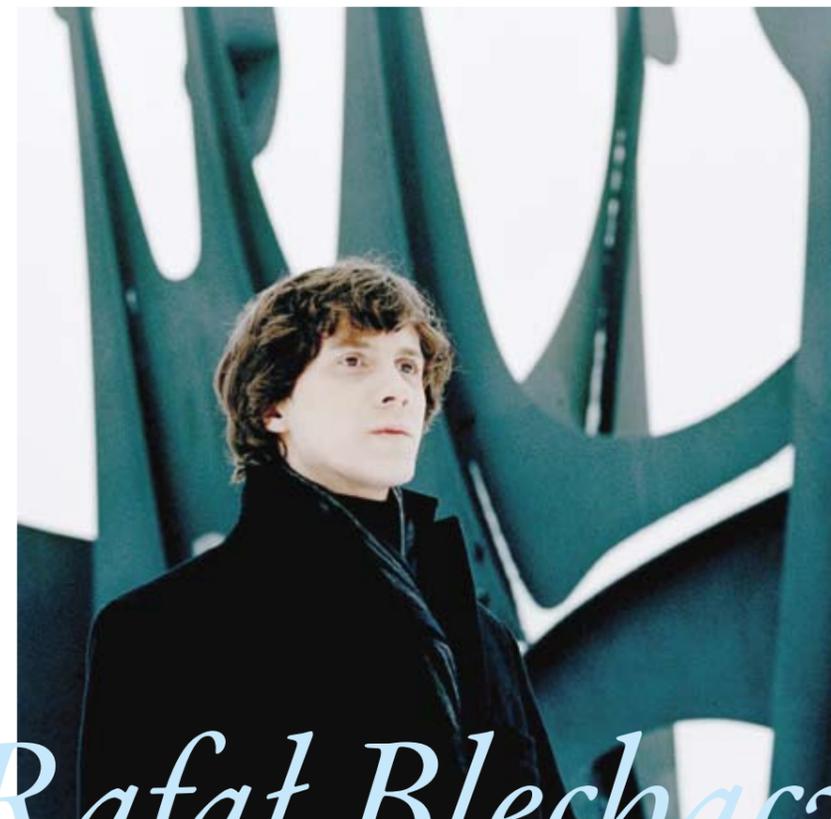
そして今回、新たに「ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール!」がスタートし、その初回を飾るのが再びブレハッチであることは、それだけファンの熱望が強いに違いない。

言うまでもなく、ブレハッチは2005年の第15回ショパン・コンクールの覇者である。ショパン・コンクールというと、すぐにポーニーやアルゲリッチ、ツィメルマンなど巨匠たちの顔が浮かぶ。彼らは壮大なスケールと豪快なテクニック、類稀な駆動力で音楽を前に進めていくが、ブレハッチは深く正確な譜読み、直感と確信に根差した共感を常に携え、多感でデリカシーに彩られた音色や揺蕩うようなカンタービレで作品の心象風景を織り上げていく。

なにより、ブレハッチ独特のピアニシモは、内省に至る沈潜や物憂げな抒情を湛えながらあくまで儚く、けれども哀切を紡いでこの上ない存在感を放つ、まさにドラマティックなピアニシモなのだ。そして最小限の起伏や振幅の中での感情表現は、溢れんばかりの生命力を携えて、韻郁としたダイナミズムを湧き起こらせる。

今回ブレハッチは、ベートーヴェン初期の名作ソナタ、故国ポーランドの作曲家シマノフスキのソナタ、そしてショパンを弾く。2010年ショパン・イヤーでの来日で、目眩くように芳醇で薫り高いショパンを綴ったのは記憶に新しいが、もとよりショパンは大きなホールを嫌い、軽やかで繊細なエラールやブレイエルを好んだ。ブレハッチに、まだ見ぬショパン自身のピアニズムを感じるのは私だけだろうか。

新しいシリーズのスタートを飾るのは、「ピアノ・エトワール」シリーズの第1回に出演したブレハッチ。彩の国には5年ぶり、3度目の登場となる。第15回ショパン・コンクールの覇者、ブレハッチのピアニズムを堪能したい。



Rafal Blechacz

ラファウ・ブレハッチ(ピアノ)
Rafal Blechacz

1985年ポーランド生まれ。2005年、ショパン国際コンクールにおいて優勝を果たすと同時に、マズルカ賞、ポロネーズ賞、コンチェルト賞、ツィメルマンによって創られたソナタ賞、そして聴衆賞を受賞するという快挙を成し遂げた。10年には、荣誉あるキジアナ音楽院国際賞を受賞。ドイツ・グラモフォンからCDをリリースしており、最新盤「ドビュッシー/シマノフスキ」も高い評価を獲得している。「ピアノ・エトワール・シリーズ」には、第1回に出演。



公演概要

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.1 ラファウ・ブレハッチ

日 時：2013年2月2日(土) 開演16:00
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲 目：ベートーヴェン/ピアノ・ソナタ第7番 二長調 作品10-3
シマノフスキ/ピアノ・ソナタ第1番 八短調 作品8
ショパン/夜想曲第10番 変イ長調 作品32-2
ポロネーズ第3番 変イ長調 作品40-1「軍隊」
ポロネーズ第4番 八短調 作品40-2
3つのマズルカ 作品63
スケルツォ第3番 嬰八短調 作品39

チケット(税込) 好評発売中
一 般：正面席5,000円
メンバーズ：正面席4,500円

※正面席は残席僅少。
バルコニー席、学生席は
予定枚数終了しました。

小曽根 真の現在 Vol.3 デュオ with エリス・マルサリス

取材・文◎山下シオン(ジャーナリスト) Photo◎篠山紀信

「小曽根 真」という音楽の旅へ

「小曽根 真の現在」は、まさにその時の小曽根 真そのものを映し出すコンサート。ひとたび席に着くと、まるで目的地のわからない旅に誘われるようなわくわくした高揚感が得られる。それは、常に変容していく小曽根の世界を、ともに体感するような経験だ。

2010年のVol.1の児玉 桃との共演では《春の祭典》という大曲でクラシック音楽と向き合い、2011年のVol.2ではソロ演奏で新境地を拓いた。いずれも意義のある“挑戦”だったと語る。

「正直なところ、ジャズ・ピアニストにとっ

世界的ジャズ・ピアニスト小曽根 真の「現在」を伝えてきたシリーズの最終回は、ニューオリンズからジャズ界の巨人、エリス・マルサリスを迎える。年齢や国境を越えた心で繋がった二人の音楽の対話が期待できる。ブルースやデクシーランドといった小曽根にとっての原点回帰ともいえる演奏会となるだろう。

て《春の祭典》を演奏するという事は技術的にも精神的にも大変なことなんです。自分に対するギリギリなところでの挑戦でした。けれども尊敬するピアニストの児玉さんと演奏することにすごく意味があったし、作曲することにも影響がありました。最新アルバム『マイ・ウィッチズ・ブルー』に収録したタイトル曲がその一例ですが、とてもクラシック風のメロディがブルースに転じていくんです。この曲をジャズのスタイルとして表現できたのは、クラシックの曲を弾くことのできたものがあった、旋律に生かされたのだと思います。

ソロでは僕の「現在」を表現するために、一人になって100%自分と対峙しました。やるからには、自分に対する突破口を

開きたい。だから、これも自分への挑戦です。僕は即興というものに対してのテーマ性を持っていて、無駄な音が一切ない究極のアドリブを目指しています。言葉で話すのも同じですが、うまい人になるとボキャブラリーも豊富ですから、内容も面白くて、流行言葉や早口言葉で観客を沸かせることができますね。でも、これは無駄な言葉が多い。本当に感動させる話ができる人は、文章で書き起こしても無駄が一切ないほどのスピーチを止めどなく話せるんです。だから、僕は即興するときに大切なのはいかに“これだったら、うまくいくよ”っていう手法を使わないで演奏するかということなんです。さらにいえば、僕を書くメロディがお客さんと繋がって、僕と一緒に僕の世

いよいよシリーズ最終章、 エリス・マルサリスを迎え ピアノ・デュオでしめくくる



小曽根とエリスによるアルバム『ピュア・プレジャー・フォー・ザ・ピアノ』のレコーディング風景(2012年5月ニューオリンズにて)

スのことは早くから知っていたが、二人が初めて対面したのはつい最近の2011年のこと。小曽根が音楽担当を務めた舞台『欲望という名の電車』のリサーチでニューオリンズを訪れたときだった。小曽根はかねてからエリスにお礼をいいたことがあった。それはエリスに学んだ友人から「マコトの音楽を聴いてみる」と若いミュージシャンに勧めていたことを聴いていたからだ。そのとき小曽根は積年の思いを本人に伝え、さらに一緒にレコーディングしないかと思いつき提案したところ、エリスは即座に快諾したのだ。

『ピュア・プレジャー・フォー・ザ・ピアノ』をレコーディングしたのは2012年の5月。エリスの名を冠した「エリス・マルサリス センター フォーミュージック」のホールで2台のピアノを向かい合うように配して行われた。演奏する曲は、そのときに交わされた二人の会話で決まっていく。「ドウ・ユー・ノウ・ホワット・イット・ミーンズ・トゥ・ミス・ニューオリンズ」という曲を知っているかとエリスから聞かれ、「知ってるよ」と応じる小曽根。演奏もまるで二人がピアノで会話しているかのようだった。ニューオリンズで、エリスと共演する。それは、小曽根が心から欲している音楽だった。「ここ10年ほど、クラシックや舞台やテ

界を旅しているかということ、即興するときは常に考えています」

こうした過程を経て培ったものが、小曽根 真のすべてとなっていく。その延長線上にあるVol.3では、ジャズ界の巨匠エリス・マルサリスとの共演が待っている。

出合いが導いた原点回帰

エリス・マルサリスはサクソフォーン奏者のブランフォード・マルサリスやトランペット奏者のウィントン・マルサリスの父で、これまでに多くのミュージシャンを育ててきた人物。小曽根はブランフォードとパークリー音楽大学の同級生なので、エリ

公演概要

小曽根 真の現在 Vol.3 デュオ with エリス・マルサリス

日 時：2013年2月9日(土) 開演15:00
会 場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
出 演：小曽根 真(ピアノ)
エリス・マルサリス(ピアノ)
曲 目：DO YOU KNOW WHAT IT MEANS TO MISS NEW ORLEANS ?
SWEET GEORGIA BROWN ほか

チケット(税込) 好評発売中
一 般：正面席5,500円
メンバーズ：正面席5,000円
※正面席は残席僅少。
バルコニー席・学生席は予定枚数終了しました。

レビの音楽を弾かせてもらっているいろんな挑戦をしてきて、たくさん作品と格闘してきました。その結果、僕はやっぱりスイングしたいんだということに行き着いたんです。スイングのリズムがあって、ブルースの響きがある、自分の中でわき上がってくるものをそのまま弾いて、エリスが応えてくれる。お互いが共鳴しあう感覚でした。エリスは僕の父と同じ78歳で、父から教わって知っていた曲をエリスと演奏することができました。僕が聴いてきた音楽のルーツを作ってきた人と共演できるのは、とても光栄なこと。ジャズって、生きていることそのものだと思います。何も考えないでありのままの僕で演奏する。エリスと繰り広げるそんなセッションをみなさんに聴いてもらいたいです。僕の音楽の原点はここにある。今回に関しては“現在の小曽根 真の原点”というタイトルのほうがしっくりくるかな(笑)



小曽根 真 おぞね・まこと(ピアノ)
Makoto Ozone

12歳でオスカー・ピーターソンの演奏を聴きジャズ・ピアノを学び始める。1983年パークリー音大ジャズ・作曲科を首席で卒業。同年カーネギーホールでリサイタルを開き、米CBSと日本人初の専属契約を結び『OZONE』で世界デビュー。2003年第45回グラミー賞ノミネート。ジャズの最前線で活躍する一方、ショパンの名曲に独自の即興を加えたソロリサイタルや、国内外のオーケストラとも共演を重ね、クラシック音楽界でも高い評価を得ている。また、舞台音楽やテレビ番組のサウンドトラックを手がけるほか、FM番組のパーソナリティーを長年務めるなど、ジャンルを超えて幅広く活躍している。現在、国立音楽大学(演奏学科ジャズ専修)教授。
公式HP：http://makotoozone.com/



村治佳織の現在 Vol.1 デュオ with ヴォルフガング・シュルツ

取材・文◎片桐卓也（音楽ライター） Photo◎細野晋司



村治佳織インタビュー

クラシカル・ギターの多彩な

ギターとフルートの 豊富なレパートリーを紹介

人気、実力を兼ね備えた演奏家が、独自のプログラミングを披露する「現在」シリーズ。小曽根 真に続いてはクラシカル・ギターの村治佳織が登場する。2013年の3月2日が第1回となる。「この時期、この彩の国さいたま芸術劇場という場所ではできないような選曲で、演奏会を行えたらと考えました。これまでの私の演奏会にはなかった作品の組み合わせ、そして意外なゲストが登場する予定です」

と抱負を語る村治。その第1回のプログラムを見せてもらった。なんとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団で長く首席フルート奏者として活躍していたヴォルフガング・シュルツがゲストとして共演する。「フルート奏者の方との共演は10年ほど前によく行っていたのですが、ここしばらくはありませんでした。シュルツさんとはもちろん初共演になります。フルートとギターのレパートリーは意外にたくさんあって、例えばこの第1回で演奏するピアソラの《タンゴの歴史》は最近聞く機会が増えましたよね。ピアソラが南米代表だとすれば、ヨーロッパ代表はフランスの《フルートとギターのためのソナタ》でしょうか。またバルトークの《ルーマニア民俗舞曲》のように他の楽器用に書かれた作品の編曲版も入れ、さらに新しい作品も加えたプログラムを考えました」

その新しい作品とはアメリカの、現代

単なるリサイタルの枠にとどまらず、アーティスト自身の現在の姿を映し出す「現在」シリーズ。待望の村治佳織のシリーズがスタートする。ウィーン・フィルの元首席フルート奏者、ヴォルフガング・シュルツをゲストに迎えて、趣向を凝らした音楽の旅へと誘う。

作曲家ジョアン・タワーとロバート・ピーザーのものである。

「実は、弟(村治奏一)がアメリカ留学中に演奏したことがあり、楽譜を持ち帰ってきたのです。こうした現代の作品をシュルツさんが共演してくれるのだろうか、とちょっと不安でしたが、提案したらすぐに受け入れてくださり安心しました。今回は南米、北米、ヨーロッパ、日本の武満徹さんの作品も加わるというカラフルなものになりました」

クラシカル・ギターの世界には、時代や地域を超えて様々な作品が存在している。それが大きな魅力のひとつだ。

「シュルツさんはヨーロッパの長い音楽の伝統を体現している巨匠だと思いますが、そうした演奏家の方と様々な地域の作品を共演することで、音楽の伝統の魅力と、同時に革新的な一面も表現できたら良いなと思っています。C. Ph. E. バッハの《ハンブルガー・ソナタ》は伝統的なフルートとギター音楽の世界で、そこから現代の作品まで、ギター音楽の幅広さを実感していただけたと思います」

タンザニア旅行での経験

村治はデビューから20年、そして30代を迎えて、自分の中での転換点を模索しているような気がする。NHKのBSプレミアムの番組「旅のチカラ」の中で、村治はアフリカのタンザニアの音楽一家を訪ねた。

「アフリカは人類の起源でもあり、同時に音楽の起源でもあると思っていたので、ぜひ実際にアフリカに行ってみたくて思っていました。それが今回実現したのですが、アフリカの伝統音楽を演奏する大家族と一緒に過ごしていると、まさに音楽のルーツに触れるような感じがしました」

その音楽のルーツは、やがてヨーロッパやアメリカ大陸に影響を与えていくこゝ



合わせのポリリズム。作曲ということ、なにか肩肘張って五線紙に向かい、真剣にやらなければいけないものというイメージがあったのですが、自然に音楽が浮かんでくる、そんな作曲の仕方もあるんだと思いました。自分でもこれからはか作品を作るときに参考になる経験でした」

作曲ということではないが、この第1回の演奏会では、武満徹のソング《小さな空》を村治自身がギター用に編曲して演奏することになっている。他にギター・ソロ曲としてアルゼンチンの作曲家ブホールの作品もラインナップに加えた。「私自身はヨーロッパの音楽を学んで来て、それが自分の幹となっていると思います。その幹をより太くするために、ギター音楽ならではの時間と空間を超えた広がり、これからも追求していきたいと思っています」

そんな村治佳織の「現在」を感じるプログラミングを楽しんでいただきたい。

村治佳織 むらじ・かおり (ギター) Kaori Muraji

15歳の時、ビクターエンタテインメント株式会社よりCDデビュー。高校卒業後、バリのエコール・ノルマルに留学、アルベルト・ボンセ教授に師事。国内はもとより欧州のオーケストラとの共演を多数重ね、2003年英国の名門クラシックレーベル DECCA と日本人としては初の長期専属契約を結ぶ。移籍第1弾アルバム『トランスフォーメーション』は第19回日本ゴールドディスク大賞クラシック・アルバム・オブ・ザ・イヤー（洋楽）を受賞。現在、J-WAVE (FM) 「The Players」の毎月最終土曜日のマンスリー・ナビゲーターを担当。
公式HP：<http://www.officemuraji.com>

公演概要

村治佳織の現在 Vol.1 デュオ with ヴォルフガング・シュルツ

日 時：2013年3月2日(土) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
曲目：C. Ph. E. バッハ/ハンブルガー・ソナタ
武満 徹/翼(ギターソロ)
武満 徹/小さな空(ギターソロ)
武満 徹/フルートとギターのための《海へ》
タワー/スノー・ドリムス
ピーザー/《山の歌》より
ピアソラ/《タンゴの歴史》より 第4曲(現代のコンサート)
ピアソラ/《タンゴの歴史》より 第2曲(カフェ 1930)
ブホール/あるタンゴ弾きへの哀歌(ギターソロ)
フランス/フルートとギターのためのソナタ
バルトーク/ルーマニア民俗舞曲

チケット(税込) 好評発売中
一般：正面席5,000円/バルコニー席4,000円(学生2,000円)
メンバーズ：正面席4,500円

魅力に出会う

ヴォルフガング・シュルツ(フルート) Wolfgang Schulz

オーストリアのリンツ生まれ。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のソロフルート奏者を長年務めた著名フルーティスト。ウィーン・フィルとベルリン・フィルのソロ管楽器奏者たちによる木管五重奏として2013年に創立30周年を迎える「アンサンブル・ウィーン＝ベルリン」のメンバーとしても活躍。1996年より、ルーラン(フランス)での音楽祭「ボヌール・ミュージカル」芸術監督。79年からはウィーン国立音楽大学で教鞭を執っている。



Kotaro Yoshida

俳優 吉田鋼太郎



今や彩の国シェイクスピア・シリーズに欠かせない俳優として活躍する吉田鋼太郎。若き日に目覚めたシェイクスピアの魅力に惹かれ続ける一方で、蜷川幸雄との出会いの記憶はホロ苦く……。人に歴史あり。シェイクスピア俳優は1日にして成らず。

取材・文◎市川安紀

「夢が叶ったと思ったらまだ先がありました」

高校2年生の夏休み、英語の先生にチケットをもらって初めて観た芝居がシェイクスピアの『十二夜』でした。これがすごく面白かった！ 劇団雲の公演で、道化役の橋爪功さんがダントツに印象に残っています。同じ年に日生劇場で蜷川幸雄さん演出の『リア王』を観て。主演は今の松本幸四郎さん。ドーム状の地球が割れてリア王が狂乱する大スペクタクルで、『十二夜』とはまた全く違う面白さでした。この2本で決定的にシェイクスピアに惹かれたんです。

上智大学でシェイクスピア研究会に入り、サークルでの初舞台は『十二夜』のセバスチャン。英語上演ばかりだったサークルの伝統を破って『ヴェローナの二紳士』を初めて日本語で上演し、演出も担当したりと、芝居熱は高まる一方です。野田秀樹さんの夢の遊眠社が上智の小劇場でも公演をしていて、同じ学生でこんなに才能ある人がいるのかと衝撃を受けたのもこの頃ですね。



『グリークス』（2000年／Bunkamuraシアターコクーン）左は白石加代子 Photo◎谷古正彦

蜷川幸雄のトラウマ

職業俳優を目指して大学を休学、劇団四季の研究生になるも、半年でリタイア。

column

『タイタス』初日伝説

『タイタス・アンドロニカス』で蜷川シェイクスピアに初主演。気合いが入り過ぎて稽古2日目で床に叩き付けた指を骨折し、本番初日には、(物語の設定上)切り落としたはずの左手を忘れて両手をぶんぶん振り回す。客席はザワザワ。すると客席で観ていた蜷川が現れ、「手、手」。演出家が本番中に芝居をストップ、程なく再開という珍事に。本人は「かえって落ち着いたら」とか。今では語り草となっている初日伝説だ。

そんな時に、蜷川さん演出『下谷万年町物語』（81年）のオーディションを受けました。主役に決まったのは渡辺謙さん。でも「他の役で出ませんか」と連絡が来て稽古場に行ってみたら、その他大勢のオカマ役。呆然としていると、蜷川さんから「そこのお前、オカマで踊るんだよ、バカヤロー!!」と罵倒され……。心が折れまくって、1日で稽古場に行かなくなりました。敵前逃亡です。以降、蜷川さんのシェイクスピア作品は観るのを避けるようになります(笑)。

もあり、立ち稽古初日に自分が考えたことをやったら気に入っていただいて。共演していた寺島しのぶが、「鋼太郎さんが芝居を始めたら蜷川さんの顔が変わった」と教えてくれたのは嬉しかったですね。

それから蜷川さんの作品に出させてもらうようになったんですが、『タイタス・アンドロニカス』（04年）の主演の話には驚きました。でも、ここで断る手はない。セリフ中心のストイックな芝居で育った自分が、主役に華や色気が必要な蜷川さんの芝居で芯を張る大変さを痛感しましたけど、全力でやるのみです。再演(06年)ではイギリスのロイヤル・シェイクスピア・シアターまで行かせてもらって。シェイクスピアをずっとやってきた人間としては、夢のようでした。一度は逃げた男なのに、本場イギリスまで連れて行っていただいたんですから、蜷川さんはまさに人生の恩人です。

でも、これで夢が叶ったと思ったら大きな間違いで。シェイクスピアはいくらでも演じようがあるし、年齢によって面白みもどんどん増してくる。何度やってもやり尽くすということがないんです。一生をかけて追いついていきたいですね。

大学は結局諦め、シェイクスピア・シアターに入りました。出口典雄さんの戯曲の読み方、主演俳優だった河上恭徳さんの口跡の良さ。本当に勉強になりましたね。それからライミング、東京亭組を経て、自分の劇団AUNを結成して現在に至ります。

シェイクスピア俳優の夢

蜷川さんとの再会は『グリークス』（00年）です。40歳の節目で心に期するもの

よしだ・こうたろう 1959年東京都生まれ。97年に結成した劇団AUNではシェイクスピア作品を中心に上演、演出も手がける。蜷川作品はシェイクスピア『タイタス・アンドロニカス』『オセロー』『アントニーとクレオパトラ』『シンペリン』でタイトルロールを務めたほか、『オイディプス王』『ムサシ』『しみじみ日本・乃木大将』など数多く出演。ほかに『時計じかけのオレンジ』『リタルダンド』など。現在、『こどもの一生』に出演中。

★彩の国シェイクスピア・シリーズ第27弾『ヘンリー四世』上演決定！ 吉田鋼太郎はフォールスタッフ役で出演。詳細はP.7をご参照ください。

PLAY 10月16日~26日

“ザ・ファクトリー1”
さいたまゴールド・シアター『白鳥の歌』『楽屋』



「劇場内のすべてが劇場」とも言うべき新しい表現活動“ザ・ファクトリー”の第1弾。蜷川幸雄の演出補を務め、ゴールド・シアターでは結成当初から指導に当たる井上尊晶が演出を担当。大ホールの大ホールで演じられたのは、男性陣によるチューホフ作『白鳥の歌』(写真左)、女性陣による清水邦夫作『楽屋』(写真右)。共に人生の黄昏どきを迎え(あるいは現世をさまよいつつ)ながら、「舞台」と「役者」に対する断ちがたい思いがこぼれ出る。もともと登場人物が少ない芝居だが、一つの役を複数の俳優が演じることで、蜷川が言うところの「個別史を根拠とする集団」ならではの強靱な魅力が浮き彫りになった。とりわけ『楽屋』で正気と狂気の淵をたゆたうプロンプターを演じた86歳、重本恵津子の透明感あふれる「女優」ぶりが忘れがたい。

Photo◎宮川舞子

MUSIC 9月29日

ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.19
ヤン・リシエツキ



1995年生まれの子若いピアニスト、けれどもすでに洗練されたノブブルな音を身に付けており、ホールの音響をふまえた音作りの卓越さに魅了された。バッハの《ハルティータ》第1番では多声を見事に弾き分ける巧みさを見せ、メシアンの《前奏曲集》からは多彩な音色を聴かせてくれた。これからますます深化・進化していくであろう才能の「今」の姿を惜しみなく披露してくれた。

Photo◎加藤英弘

MUSIC 10月7日

庄司紗矢香&ジャンルカ・カシオーリ
デュオ・リサイタル

ヤナーチェク、ベートーヴェン、ドビュッシー、シューマンのヴァイオリン・ソナタ4曲というバラエティに富んだ、演奏する方は大変なボリュームたっぷりのプログラム。庄司は非常に深いところまで踏み込んで、フレーズひとつひとつも考え抜いて奏でるので、聴く方も自然と集中し純度の高い時間となった。一方カシオーリも、庄司のそんなスタンスを受けとめて選び抜いた輝くピアノの音でヴァイオリンとの会話を楽しんでおり、二人で築く豊かな音世界を堪能できた。

Photo◎加藤英弘



PLAY 10月13日

彩の国さいたま寄席 四季彩亭
～柳家喬太郎とおすすめ若手落語会



八面六臂の活躍を続ける柳家喬太郎が徐々に彩の国さいたま寄席に登場！ 開口一番の林家けい木「やかん」、続く三遊亭天どん「合併家族」、柳亭左龍「花筏」、仲入りを挟んで柳家基語楼「町内の若い衆」と心地よく客席を沸かせ、いよいよ喬太郎師匠の登場。何でもかんでも小言を言わずにおれない長屋の大家・幸兵衛の妄想は暴走しまくり、もはや制御不能の脳内大騒動。はた迷惑だが愛すべきキャラを喬太郎師匠でテンポよく笑わせた「小言幸兵衛」で秋の四季彩亭を満喫した。

Photo◎加藤英弘

★特に記載のないものは彩の国さいたま芸術劇場で開催。

DANCE

バットシェバ舞踊団
『Sadeh21ーサデ21』

日時：11月23日(金・祝) 開演15:00、
24日(土) 開演15:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
振付：オハッド・ナハリン
出演：バットシェバ舞踊団
チケット(税込)
一般：S席6,000円/A席4,500円(学生3,000円)
メンバーズ：S席5,400円/A席4,000円

MUSIC

ダニエル・ハーディング指揮
新日本フィルハーモニー交響楽団

日時：12月1日(土) 開演14:00
会場：埼玉会館 大ホール
曲目：チャイコフスキー/交響曲第4番へ短調 作品36
ストラヴィンスキー/バレエ音楽《春の祭典》
チケット(税込)
一般：S席6,500円/A席5,500円
メンバーズ：S席6,000円/A席5,000円
※B席・学生B席は予定枚数終了しました。

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート 第20回
東混ゾリステンが贈る
日本の歌&クリスマス・キャロル

日時：2013年1月17日(木) 開演19:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：林家たい平、春風亭柳樹、桂 枝太郎、
林家たけ平
チケット(税込)
一般3,000円 メンバーズ2,700円 ゆうゆう割引
(65歳以上・障がい者) 2,000円

PLAY

【提携公演】(会場：池袋・東京芸術劇場)
『トロイアの女たち』

日時：12月11日(火)~20日(木)
会場：東京芸術劇場 プレイハウス(中ホール)
作：エウリピデス
演出：蛭川幸雄
出演：白石加代子、和央ようか ほか 日本人俳優
+イスラエルのユタヤ系俳優、アラブ系俳優
チケット(税込)
一般：S席10,000円/A席8,000円/サイドシート
6,000円/65歳以上7,000円/25歳以下4,000円/
高校生割引1,000円
メンバーズ：S席9,500円/A席7,600円
※SAFチケットセンターではS席・A席のみ取扱い
チケット取扱い：
SAFチケットセンター0570-064-939
東京芸術劇場ボックスオフィス 03-5391-3010
主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人
東京都歴史文化財団)
共催：テルアビブ市立カメリ・シアター
【公演に関するお問合せ先】東京芸術劇場ボックス
オフィス 03-5391-3010(休館日を除く10:00~
19:00)

PLAY

彩の国さいたま寄席
四季彩亭 ~林家たい平
新春特選落語会

日時：2013年1月17日(木) 開演19:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
出演：林家たい平、春風亭柳樹、桂 枝太郎、
林家たけ平
チケット(税込)
一般3,000円 メンバーズ2,700円 ゆうゆう割引
(65歳以上・障がい者) 2,000円

MUSIC

埼玉会館ニューイヤー・コンサート2013
ウィーン・MARO・アンサンブル

日時：12月11日(火)~20日(木)
会場：東京芸術劇場 プレイハウス(中ホール)
作：エウリピデス
演出：蛭川幸雄
出演：白石加代子、和央ようか ほか 日本人俳優
+イスラエルのユタヤ系俳優、アラブ系俳優
チケット(税込)
一般：S席10,000円/A席8,000円/サイドシート
6,000円/65歳以上7,000円/25歳以下4,000円/
高校生割引1,000円
メンバーズ：S席9,500円/A席7,600円
※SAFチケットセンターではS席・A席のみ取扱い
チケット取扱い：
SAFチケットセンター0570-064-939
東京芸術劇場ボックスオフィス 03-5391-3010
主催：東京芸術劇場(公益財団法人東京都歴史文化財団)
東京都/東京文化発信プロジェクト室(公益財団法人
東京都歴史文化財団)
共催：テルアビブ市立カメリ・シアター
【公演に関するお問合せ先】東京芸術劇場ボックス
オフィス 03-5391-3010(休館日を除く10:00~
19:00)

MUSIC

ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール! Vol.1
ラファウ・ブレハッチ

MUSIC

小曾根 真の現在 Vol.3
デュオ with エリス・マルサリス

MUSIC

村治佳織の現在 Vol.1
デュオ with
ヴォルフガング・シュルツ

THEATER BRIDGE

Information

【参加者募集】
秘密いっばいの劇場の裏側を親子で大冒険!
「劇場体験ツアー」

普段立ち入ることのできない舞台の上や奈落と呼ばれる劇場の地下に皆さんをご案内したり、スタッフが明かりや音楽、効果音を操作する様子をのぞいてみたり、出演者が出番までの準備をする楽屋を訪問したり、彩の国さいたま芸術劇場大ホールの舞台裏をくまなく冒険します! この冬、劇場体験ツアーで新たな発見をしてみませんか?



Photo ©加藤英弘

日時：12月22日(土)~12月25日(火) 各日11:00/13:30/15:30
※開場は各回ともに20分前から ※各回ともに1時間程度のツアーを予定しています
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
対象：小学生とその保護者
※未就学児童のご参加はご遠慮ください(有料託児サービスあり)。※親子で一緒にお楽しみいただくツアーです。高学年のお子様の場合でも、できるだけ保護者の方がご一緒にご参加ください。 ※車椅子をご使用のお客様は事前に劇場までご連絡ください。
【定員】各回30名(申込み多数の場合は抽選)
【料金】300円(子ども・大人共通/保険料込み) ※当日受付にてお支払いください。

【お申込み方法】申込み用紙(財団ホームページ<http://www.saf.or.jp>からダウンロード)に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送いただくか、彩の国さいたま芸術劇場窓口にてお申込みください。参加証の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます(12月上旬予定)。
【お申込み締切】11月30日(金)必着
【お申込み先】〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
彩の国さいたま芸術劇場 「劇場体験ツアー係」
FAX: 048-858-5515
【お問合せ先】彩の国さいたま芸術劇場
TEL: 048-858-5500(休館日を除く10:00~19:00)

Information

【観覧募集】埼玉伝統芸能フェスティバル
埼玉の人形芝居

今回の埼玉伝統芸能フェスティバルでは、人形の操作方法が異なる2つの人形芝居を上演します。人形芝居により親しんでいただくためのワークショップも開催。どうぞお楽しみに!

日時：2013年1月20日(日) 開演13:00
会場：彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

演目：皆野町立皆野小学校郷土芸能クラブ「大神楽囃子」ほか、
横瀬人形芝居保存会「小栗判官実道記 親子対面取の場」、
竹間沢車人形保存会「日高川入相花王恋間路 渡場の段、鐘樓の段」
【お申込み方法】郵便番号、住所、氏名(ふりがな)、申込み者以外の観覧者氏名(3名まで)、電話番号を明記の上、ハガキ、FAX、E-mail、電話または埼玉県ホームページから簡易電子申請システムにてお申込みください。※定員に達し次第、申込み受付終了します。
【お申込み・お問合せ先】〒330-9301 さいたま市浦和区高砂3-15-1
埼玉県文化振興課「伝統芸能フェスティバル」係
TEL: 048-830-2882(土日・祝日、12/29~1/3を除く8:30~17:15)
FAX: 048-830-4752 E-mail: a2875-04@pref.saitama.lg.jp
<http://www.pref.saitama.lg.jp/page/dentogoinho.html>
主催：埼玉県、(公財)埼玉県芸術文化振興財団
協力：皆野町教育委員会、横瀬町教育委員会、三芳町教育委員会



年末年始の休業について

Information

平素は当財団事業につきまして格別のお引き立てを賜り、厚く御礼申し上げます。当財団の運営する3館の施設利用及びチケット販売について下記の通り休業いたします。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。

| | 12月28日(金) | 12月29日(土)~1月3日(木) | 1月4日(金) |
|-----------------------------|-----------|-------------------|---------|
| 彩の国さいたま芸術劇場 埼玉会館 熊谷会館 | 通常営業 | 全館休館 | 通常営業 |

| | 12月28日(金) | 12月29日(土)~1月3日(木) | 1月4日(金) |
|---|-------------|--------------------|-------------|
| 彩の国さいたま芸術劇場内 チケットセンター (窓口販売・電話受付) | 10:00~19:00 | 全館休館のため 休業いたします | 10:00~19:00 |
| 埼玉会館 熊谷会館 | 10:00~17:00 | | 10:00~17:00 |

24時間ご利用になれます
インターネットチケット販売
【SAFオンラインチケット】
※12/28(金)16時以降に【配送】でご予約いただいたチケットは、1/4(金)の発送となります。ただし、「埼玉会館ニューイヤー・コンサート(2013/1/7開催)」につきましては、画面表示が【配送】の場合も、チケットは公演当日会場でお渡しとなります(開演1時間前より受付開始)。何卒ご了承ください。

※メンバーズ事務局(TEL: 048-858-5507)につきましても、12月29日(土)~1月3日(木)は休業いたしますので、1月4日(金)10時以降にお問い合わせくださいますようお願い申し上げます。

ACCESS MAP アクセスマップ

【彩の国さいたま芸術劇場】

〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1
電話：048-858-5500(代) ファックス：048-858-5515
●電車でのアクセス
→ JR 埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分
●バスでのアクセス
→ JR 京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き
「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

【埼玉会館】

〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-1-4
電話：048-829-2471(代) ファックス：048-829-2477
●電車でのアクセス
→ JR 宇都宮線・高崎線・京浜東北線浦和駅(西口)下車 徒歩6分

【熊谷会館】

〒360-0031 埼玉県熊谷市末広3-9-2
電話：048-523-2535(代) ファックス：048-523-2536
●電車でのアクセス
→ JR 高崎線熊谷駅(北口)下車 徒歩15分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

彩の国シネマスタジオ LINE UP 2012.12-1



©CHIHIRO ART MUSEUM

エグゼクティブプロデューサー：山田洋次
監督・編集：海南友子
声の出演：榎 れい、田中哲司
ナレーション：加賀美幸子
出演：黒柳徹子、高畑 勲 ほか
(2012年/日本/96分)

12月7日(金)~9日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『いわさきちひろ~27歳の旅立ち~』

7日(金) 10:30/13:15/16:00/18:45
8日(土) 10:30/13:15/16:30/19:15
9日(日) 10:30/13:15/16:00

※8日(土) 13:15上映回終了後、ちひろ美術館常任顧問・松本 猛氏によるアフタートークがあります。
※8日(土) 16:30上映回は、ちひろ美術館常任顧問・松本 猛氏による舞台挨拶後に上映となります。



『雨月物語』

2013年1月18日(金)~20日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

優秀映画鑑賞推進事業 溝口健二監督特集
A『西鶴一代女』 B『雨月物語』
C『山椒大夫』 D『近松物語』

18日(金) 11:00(A)/14:20(C)/17:30(D)
19日(土) 10:30(B)/13:10(A)/16:30(C)
20日(日) 10:30(D)/13:20(B)/16:00(A)

監督：溝口健二
出演：『西鶴一代女』田中絹代、山根寿子、三船敏郎 ほか(1952年/137分)
『雨月物語』京マチ子、水戸光子、田中絹代 ほか(1953年/96分)
『山椒大夫』田中絹代、花柳喜章、香川京子 ほか(1954年/124分)
『近松物語』長谷川一夫、香川京子、南田洋子 ほか(1954年/103分)
※18日(金) 11:00『西鶴一代女』上映回は、音声ガイドがつけます。
イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。

12月19日(水)~20日(木)

会場：熊谷会館

優秀映画鑑賞推進事業 黒澤 明監督特集
A『酔いどれ天使』 B『羅生門』
C『生きる』 D『天国と地獄』

19日(水) 10:30(B)/13:20(C)/16:50(D)
20日(木) 10:00(A)/13:00(D)/16:30(B)

監督：黒澤 明
出演：『酔いどれ天使』志村 喬、三船敏郎 ほか(1948年/98分)
『羅生門』三船敏郎、京マチ子 ほか(1950年/88分)
『生きる』志村 喬、小田切みき ほか(1952年/143分)
『天国と地獄』三船敏郎、仲代達矢、香川京子 ほか(1963年/143分)

※19日(水) 10:30『羅生門』上映回は、音声ガイドがつけます。
イヤホン付きFMラジオ受信機を使用しますので、お聴きになる方はご持参ください。
※熊谷会館での上映となりますのでご注意ください。



©2009 Asghar Farhadi

2013年1月25日(金)~27日(日)

会場：彩の国さいたま芸術劇場 映像ホール

『別離』

25日(金) 10:30/14:30/18:30
26日(土) 10:30/14:30/18:30
27日(日) 10:30/14:00/17:30

※26日(土) 14:30上映回終了後、映画プロデューサー・市山尚三氏によるアフタートークがあります。

製作・監督・脚本：アスガー・ファルハディ
出演：レイラ・ハタミ、
ペイマン・モアディ ほか
(2011年/イラン/123分)

(株) 与野フードセンター / (株) 亀屋 / 武州ガス(株) / (株) 松本商会 / (有) 香山壽夫建築研究所 / 埼玉新聞社 / (株) テレビ埼玉ミュージック / 埼玉りそな銀行 (株) パシフィックアートセンター / (株) アサヒコミュニケーションズ / FM NACK5 / 東京ガス(株) / カヤバ システム マシナリー (株) / (株) タムロン / (株) 十万石ふくさや 森平舞台機構 (株) / 東芝エルティエエンジニアリング(株) / 埼玉トヨタ自動車(株) / (有) 齋賀設計工務 / ゲレッツ・ジャパン・スズゼン(株) / 武蔵野銀行 浦和ロイヤルバインズホテル / アルピーノ村 / 国際照明(株) / 三国コカ・コーラボトリング(株) / 埼玉スバル / 桶本興業(株) / (株) 佐伯紙工所 / (株) 太陽商工 (株) しまむら / (有) 六辻ゴルフセンター / 不動産発(株) / ビストロ やま / 埼玉県信用金庫 / (株) 栗原運輸 / 彩の国SPグループ / (有) ブラネッツ / 関東自動車(株) (株) デサン / セントラル自動車技研(株) / 丸美屋食品工業(株) / ポラスグループ / ひがし歯科 / 埼玉トヨペット(株) / 公認会計士 宮原敏夫事務所 / (株) 価値総合研究所 (株) 埼玉交通 / 医療法人 顕正会 蓮田病院 / (株) ウイズネット / サイデン化学(株) / アイル・コーポレーション(株) / 五光印刷(株) / 旭ビル管理(株) ヤマハサウンドシステム(株) / (株) エヌテックサービス / (株) クリーン工房 / (株) つばめタクシー / (株) サンワックス / (株) 総合舞台 / (株) タクトコーポレーション 広総業(株) / (財) さいたま住宅検査センター / (株) コマム / (株) 国大セミナー / (株) NEWS エンターテインメント / (株) オーガス / イープラス / 六三四堂印刷(株) 医療法人 櫻会 林整形外科 / 埼玉県整形外科医会 / 医療法人社団 山粋会 山崎整形外科 / サンケイリビング新聞社 / (株) 三和広告社 / (株) セノン / 東京新聞ショッパー社

H24.10.15 現在 / 一部未掲載

【問合せ先】(公財) 埼玉県芸術文化振興財団 営業宣伝課 サポーター会員担当 TEL 048-858-5507



オイディプスが解いたスフィンクスの謎



ギスターヴ・モロー「オイディプスとスフィンクス」(1864年)

人望厚い王に一体何があったのか？ まさか、ひょっとして……という予感とともに真相が明らかになっていくギリシャ悲劇の傑作『オイディプス王』。冒頭からテーバイの王として市民の前に登場するオイディプスだが、彼が王となり、先王の妃イオカステを妻に迎えたのは、旅の途中で怪物スフィンクスを退治した功績からだ。

古代エジプトのスフィンクスは、ファラオ(王)の頭とライオンの身体を持ち、王を守護する神聖な存在。ギザの大スフィンクスでおなじみだ。一方、ギリシャ神話のスフィンクスは、胸から上は人間の女、胴から下はライオン、背中に鳥の翼を持つ怪物である。上半身が女の姿なので見た目はそれほど恐ろしくもないが、これが実は凶悪なモンスター。誰も解くことができない難題をふっかけては答えられない者を片っ端から殺し、テーバイ中を恐怖のどん底に陥れていたのだ。

そこへ偶然通りかかったのがオイディプス。彼はスフィンクスの謎に果敢に挑む。その謎とは、

「4本、2本、3本の足を持つものは何か」。

オイディプスが答えていく、

「それは人間である。赤ん坊の時は這って4本足で歩き、成長すると2本足で歩き、老人になると杖をついて3本足で歩く」。

みごと、正解。謎を解かれたスフィンクスは悔しさのあまり山から谷底に身を投げ死んだとか。

かくして、テーバイを救ったオイディプスは王国と王妃を手に入れる。平和が訪れ、めでたし、めでたし……と、ここまでが戯曲のブロログ。ところがスフィンクスの謎を解いたがために、皮肉にもオイディプスには過酷な運命が待ち受けるのだ。続きは舞台上、じっくりと。

ドミニク・アングル「スフィンクスの謎を解くオイディプス」(1808年)

